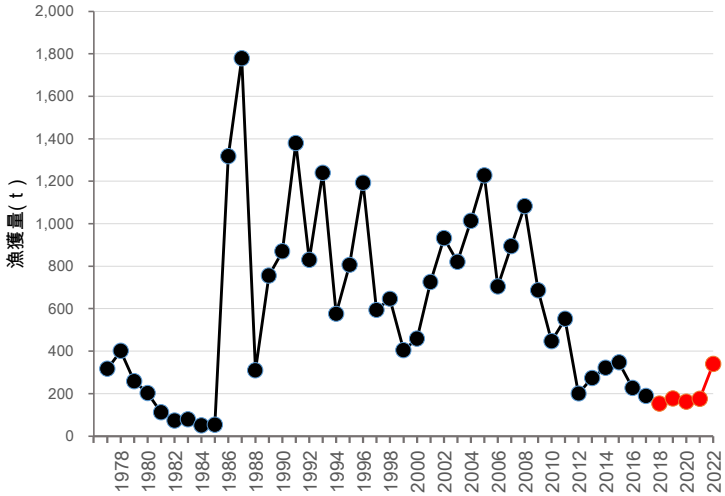
マアジ

令和4年12月

資源の動向 「中位・増加」

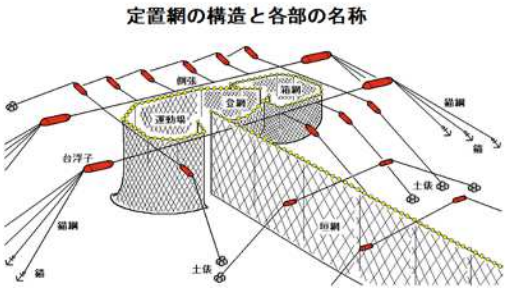


相模湾のマアジ漁獲量の経年変化
（定置網：1977～2022）

相模湾のマアジ漁獲量は2016年から200トン前後で推移していたが2022年は300トンまで回復した。マアジ太平洋系群の資源量は減少傾向にあるため、東シナ海から回遊するマアジの減少は続くと考えられるが、相模湾における直近5年の傾向は「中位・増加」である。

対象漁業

〇定置網



生物学的特性

〇分布：日本の沿岸全域
〇移動：東シナ海でふ化したマアジは本州沿岸域に北上し、産卵期には東シナ海近辺の大陸棚まで南下し、産卵後は索餌のため再び北上回遊するとされている。一方、地付きのマアジは地先付近で再生産していると考えられており長距離の回遊は行わない。
〇成長・産卵期：相模湾で漁獲されるマアジは1年で尾叉長18cm前後、2年で尾叉長21cm前後に成長し、本格的な繁殖への加入は雄は1歳，雌は2歳以上。東シナ海での主産卵期は2月～4月、相模湾近海では5月～6月に最も生殖腺が発達する。